

小學校が望む幼児

東京女子高等師範學校
附屬小學校

淺 黃 俊 次 郎

一

小學校は國民教育の場所であり基礎教育の道場でありますから、入學適齡兒童であつて且普通の心身發達をしてゐる兒童ならば、好き嫌ひなく小學校は之を歡んで迎へ入れなければなりませんのであります。ですから小學校が如何なる幼児の入學を望むかといふやうなことは、小學校の本質を使命から見ても、實は口にするべきものではないと私は考へるものであります。即ち小學校は、その好むと好まざるを、入學すべき幼児を迎へ入れるといふことは義務であり、且つは權利でもあります。るのであります、特に普通の公立小學校はさうした立場にあるわけであります。

二

幼児は入學までに、或は家庭だけで育てられ、或は幼稚園や托兒所で保育されるのであります。幼稚園の保育を受けた幼児のみを小學校が望んで、他は之を忌み嫌ふといふやうな風が假りにもあつてはならないのであります。

しかし乍ら、幼稚園の保育といふものが、より教育的な施設のもちに行はれ、且つ眞に正しい保育が行はれるものであれば、小學校としては、幼稚園の保育を受けた幼児を迎へ入れるに越したことはないのであります。

小學校は國民教育として、國民的基礎教育として國民たるの人格を陶冶するこいふ目的使命を堅持して教育するものではあります、しかし子供の個性、素質こいふものを度外視して畫一的に、同じ尺度を當て込んで教育したり、或は同じ型にめ込んで教育したりすべきものではないのでありますから、腕白な幼児でも、内氣で無氣力な子供でも、何んな子供をでも快く引受けて、その子供の育ち、素質、個性の上に、目指す國民的人格の陶冶法を講じて行かねばならないのであります。

故に、こいふ幼児でなければ小學校教育としては困るなごご考へてはいけなわけでありまして、家庭や幼稚園やが、幼児の保育についてより良く方法を講じるこは誠に望ましい限りであるけれども、小學校教育の爲に、何ういふ子供を作つて呉れど幼稚園や家庭に要求するこは、實は間違つた態度ではないかと思ふのであります。

例へば我が女高師附屬小學校の教育が、作業主義の教育法を實施してゐるこころから、當校に入學する幼児が凡て作業教育に適する性格のもでなければならぬだらうなごご考へるならば、それは大いなる誤りなのであります。眞の教育は一層子供の良き芽を培ひ育て、ふき出さずに居る芽をふき出させ、缺陷を矯正し、かくして國家、社會、文化に貢獻し得る力を有つ人格の陶冶を目指すべきなのであります。我々の作業教育なごもその眞の教育法なのであります、活力の足りない子供に活力を有たせ、社會性の不足な子供に社會性を培ひ、内氣な子供を發動的な子供に育てるこいふ風に、出來るだけ個性、素質に立脚して眞の教育を施すのであります。

教育法に子供をほめ込むのは大なる誤りであります。子供に教育法を講じて行くべきであります。これは幼稚園の保育に於ても同様であるべき筈であります。かう私共は考へなければならぬものであらうと思ふのであります。こごに私共の學校の低學年教育法の綱要を一寸御紹介しておきたいと思ひます。

低學年ハ低學兒童ノ特殊性ニ立脚シテ其ノ生活ヲ指導シ 個性ヲ尊重シ 社會性ヲ陶冶シテ 獨立ノ個人並ニ社會人タルノ素地ヲ養フヲ以テ要旨トス

これが尋一二學年教育法の要旨であります。そしてその指導の方法としては

生活ノ指導ハ合自然ノ方法ニヨリ 直觀ニ發スル一系列ノ活動ヲ輔導シ 以テ生活ノ總合的全體教育ヲ行フ

其ノ形式ハ遊戯及ビ作業トシ 作業題材ハ兒童ノ生活環境内ニ於ケル自然ノ事物現象 文化的社會的ノ事物現象ヨリ採ル 遊戯ハ兒童ノ自發活動ヲ尊重シ 身心ノ發達ニ適合セシム

全體教育ノ指導課程ハ次ノ如シ (一)直觀 (二)説話 (三)作業 (四)發表 (五)遊戯

かくして學級は之を兒童の共働社會たらしめ、教室は之を兒童の生活場所たるに適應せしめるのであります。そして教師は、幼稚園の如くに、始業より終業に至るまで、絶えず兒童と共に生活し、且つ共働するのであります。幼兒の家庭生活、乃至は幼稚園生活に接近させて然も一段々々々生活を擴充させて行くのであります。

四

かう考へて参りますと、噲に時折り聞かやうな、某々幼稚園が自己の評判を氣にする餘り、小學校入學後の成績を誇りたいところから、主として知的方面の注入教育をなし、學科的な成績のみを問題にするとか、或は或る種の臭味のある方法をして、幼兒の自活動性を摘み取つてしまふさいふ如きは、最も望ましからざるころであります。

概念的な大人らしい言葉を教へ込み、或は概念的な物知り者に子供に育て、あつて、然も入學早々から教師の鼻息ばかり氣にして行動するやうな、さうした子供を見受けますが、それは幼兒の保育さいふ點に於て間違つたものであるし、小

學校にしても望ましくないことでもあります。誤つた保育を受けた子供は望ましくないのであります。

素朴で、素直で、元氣な子供の望ましいことは言ふ迄ありません。子供は元來、素朴なものであり、活動的である筈であります。言ひつけられなければ、自らは何事にも手を出さない、活動しないといふ子供にされては困るのであります。或る型にはめ込まれて固めさせられた子供の教育は難かしいのであります。合自然的に素朴ですくく伸びやかに育てられてゐる子供は、柔軟性、陶冶性に富んでゐるから教育し易いのであります。

ですから、元氣で快活で、自發活動性に富んでゐる子供に保育されることは、幼兒の保育され自體に適合し、然も小學校の望むところでもあります。